



4

ふくしまキッズ

運営団体/ふくしまキッズ実行委員会

各地の受け入れ地で、様々な立場の学生・大人たちが福島の子どもの成長を見守る。



「ふくしまキッズ」は2011年夏から、子どもたちのリフレッシュを目的として活動を始めました。しかし、活動を続けていく中で、失われたものを補うという消極的な考え方から、この活動を通じて子どもたちの学びと育ちの機会を提供することがこの活動の価値であると気付き、受け入れ地の市民が力を合わせて活動できる場を作り出しました。

具体的には「異学年で共同生活を送る」、「自然と触れ合う」、「他人の世話になる」という共同生活やホームステイなどさまざまな体験をします。そこでの生活を通じて、子どもたちは他者と力を合わせる事、我慢をすることを学び、人の役に立ちたいと思う気持ちを持つようになります。

2015年3月までに12地区で13回プログラムを実施し、約4,000人の福島県の子どもたちが参加しました。

特別な長期休暇ではなく、“普段通りの生活”を

ふくしまキッズの活動では、活動期間中、出来る限り子どもたちが自分たちで活動を作り出すように心がけています。例えば、ブランコやシーソーなどのように明らかに遊び方が決まっている外遊び用の道具は、極力用意しません。すると、子どもたちは自分たちで遊びを考え始め、自然とチャンバラごっこが始まることもあります。この遊びは自然発生的に始まったのですが、子どもたちは自分たちの安全を考えて、「胴から上は攻めない」「突きは禁止」などのようなルールを自主的に決めるのです。このように自分たちで遊びを作り出す、ふくしまキッズではそうしたことに大きな価値を置いています。

特長



| | |
|-------|--------------|
| 主な対象者 | 小・中学生 |
| 対象地域 | 福島県全域 |
| 活動頻度 | 2015年度は夏休みのみ |